



# まるの福連携

## 福祉分野からみた異業種との対話

一般社団法人福祉システム北海道代表理事

□連載□ 高橋 銀司氏

### エピソード1 気象予報士 森山 知洋氏

記念すべき第1回の対話は、気象予報士の森山知洋さんです。

●気象予報士になろうと思ったキッカケを教えてください

大学時代に偶然、兄が持っていた「天文・気象の本」を読んだのです。その時、漠然とですが、それまで興味を抱いていたことと、自分がやってみたいことが一致するような感覚を覚えました。そこから3年間勉強して6回目の試験で気象予報士に合格しました。

●難関資格としても有名な気象予報士ですが、仕事の魅力はどのようなところですか

テレビやラジオの天気予報だけでなく、さまざまな分野で自分の発表する天気予報が必要とされていると感じられるところです。農業や漁業、工事現場、各種イベント関連など天気の影響する分野が幅広いのも魅力の1つです。

●そのような多種多様な世界の中で、特に興味を持った分野は何ですか

気象と健康に関わる分野ですね。日々の天気の変化は、私たちの行動や健康、さらに気分にも大きな影響を与えます。「健康気象アドバイザー」という資格を取り、天気と健康コンテンツに特に力を入れました。都内の気象会社に勤めていたころは、自分で新しいコンテンツを開発し、予報業務のほかに、マーケティングや営業部門も兼務しました。例えば、化粧品会社などに独自開発した、きめ細かいお肌のための紫外線情報や乾燥情報などを導くなど、今まで以上に天気を通じて、さまざまな業種と関わることができました。

●放送局の気象キャスターの仕事はどうですか

以前は専門業種の限られた人向けに、詳細な気象情報を提供するのを主として取り組んできました。一方、放送局では道民の皆さん向けに予報を発表するため、対象が広くなりました。道民の皆さんのために仕事をさせていただいているという実感が持てることか



気象キャスターとしてテレビやラジオで活躍する森山氏

番良かったと感じています。気象キャスターの使命は何といっても、台風など災害時の被害を少しでも減らすことが一番です。また、普段の生活がより良くなるために、天気プラスαの情報を発信することも面白い部分です。このプラスαの部分に、健康やお出かけ情報、スポーツやイベント、食や観光などさまざまなものが天気と関わっていて、できるだけ旬でタイムリーな情報発信を日々、心掛けています。

●反対に、業務の中で難しいと感じる部分はありますか

全道に向けての情報発信が難しいですね。限られた時間(短い時間枠では1分程度)の中で、できるだけ役立つ情報発信を心掛けていますが、伝えきれないもどかしさを感じています。その日、天気が大きく崩れる地域などを優先する場合も多く、「もっと時間があれば」と日々感じています。例えば、放送前に100個の情報を準備していても、3個程度しか伝えられないこともしばしば。影響度や関心度の高い情報を優先的に伝えるのが放送局の特徴であり、宿命かもしれません。

●業界に勤めてきた20年近くの中、印象に残る経験など教えていただけますか

今でも忘れられないのは、仕事を始めて1年ほど経った頃に任された花火大会の予報です。その日、私が発表した花火の時間帯の予報は「曇り」。雨が降らないとお伝えしましたが、花火大会が始まってすぐに雨が降り出してきました。なんとか花火大会は開催できたのですが、私

もりやま・ともひろ 1978年、札幌市出身。2002年に気象予報士に合格後、東京都内の気象予報会社で電力会社、フェリー会社、港湾工事、農協向けなど全国の幅広い業種向けコンテンツ開発予報を担当。数多くの気象コンテンツ開発にも携わる。11年からはHBCウェザーセンターで気象キャスターとしてラジオ、テレビの天気予報や防災番組を担当。16年から一般社団法人日本気象予報士会北海道支部長として気象関係の講演や防災イベントなど幅広く活動し、市民活動団体「お天気プラス」の代表としてもさまざまな情報を発信している。



HBC FLEX



森山氏への問い合わせはHBCフレックスホームページから

事に携わる方には、ぜひ気象情報をチェックする習慣をつけてもらうと良いと思います。

●ここ数年、全国各地で気象災害が多発しています。防災面でも天気予報は重要ですが福祉施設は川や急斜面の近くなど、災害危険度の高い場所に建てられている所もありますよね。今年7月にも、熊本県を中心に九州で記録的大雨がありました。球磨川のすぐ近くの特養「千寿園」で、氾濫(はんらん)した川の濁流に飲み込まれた入所者14人が命を落と

は現場で反省しきりでした。

●もし、その日の予報をもう一度担当できるとしたら、どのように報じていたでしょうか

実は、その日の天気図や気象条件は、今でも頭の中にすぐ出てくるぐらい覚えています。何度も見返したんです。その日の天気は、降雨を予測するのは難しいパターンだったのですが、大気の状態がやや不安定で、雨が降る可能性はありました。しかも、雨がもし降れば、小雨ではないことは予測できたので、大会主催者へアドバイスできれば良かったと反省しています。難しい予報ではありましたが、急にざっと雨が降る可能性があるため、そのための安全対策や観客への対応準備などの備えはしておいた方が良いでしょう、ということまでをお伝えできた良かったと思います。新米予報士だった頃の私は、主催者の対応を想定した情報発信がうまくできませんでした。

●同じ曇りの予報でも、雨の可能性をうまく表現して伝えられるかどうかで、受け取る側の印象も違いますよね。情報を受け取る側を意識することも大切ですね

はい。ただ、あまり意識し過ぎないことも大切です。天気予報を出す上では、客観的情報ということに常に心掛けています。予報が外れた時は、外れた原因をしっかり確認し、それが分かったら外れたことをうまく忘れる、その繰り返しで、次の同じようなパターンになった時は当てられるようになるのです。自分のイメージ通りにピタリと当たった時の気持ち良さは他の仕事にはない爽(そう)快感があるかもしれません。

●気象予報士として福祉との携わりはありますか  
聴覚障害のある方に向けた防災講座の講師をこれまでに3回担当させていただきました。講座では手話通訳士の方が付いてくださるのですが、自己紹介と締めの一語だけは、私も少しだけ手話を覚えて、自分でメッセージを伝えるようにしています。

●手話もできるんですね。そういったコミュニケーションって大切ですよ

初歩の簡単な手話しかできませんが、それでも、講座参加者から手話をしてくれてすごく嬉(うれ)しかったと伝えてもらえたりします。天気の話はコミュニケーションをとるきっかけにもなります。特に高齢者介護施設などで働く方には、利用者との何気ない会話の中でも天気の話を活用することをオススメします。

●確かに、「きょうは良い天気ですね」「寒いですね」などといった形で天気の話は、コミュニケーションをとるきっかけになりますよね

はい。天気はほぼ全ての人が興味を持っていますよね。健康や体調にも影響するので、施設利用者の方にとっても大きな関心事です。例えば、「今日は暑いけど、ちゃんとお水は飲んでますか」と相手をおもった会話もしやすいです。また、「とても気持ちの良いすっきりした青空でしたよ」などと外に出る機会の少ない方に外をイメージさせる一言を添えてあげるのも良いと思います。利用者の出身地を知っておいて、「きょうは、〇〇さんの出身の町も大雪になったみたいですよ!」などとお話してみると、親近感もわきますし、その後の会話にもつながると思いますよ。日々のコミュニケーションのためにも、福祉の仕

ました。施設職員だけでなく、村の方も協力して、入所者の避難をさせていたのですが、間に合わず、多くの犠牲者が出てしまいました。記録的大雨になった際、自施設がどれくらいの深さまで浸水する恐れがあるのかを、ハザードマップなどで確認し、いざという時の行動に役立ててもらいたいと思っています。昨年は道内約30カ所を講演でまわらせてもらいましたが、どこの場所でも、まずお伝えしているのが「自分の住んでいる所や勤務先などの災害危険度をしっかり知りましょう」ということです。そこから備えが始まります。

●福祉施設でも避難訓練はしていますが、災害の危険性を職員一人ひとりが把握しておくことが大切ですね

そうです。例えば、大雨の場合、自施設が5階(2階の天井まで)浸水する恐れがある場所にあるとしたら、いざという時に入所者や利用者をどう誘導できるか、ということ想定してみるのが備えの第一歩です。

●天気と健康の関わりについて、ほかにも何か情報はありますか

例えば、熱中症によって、ここ数年、全国では1年に平均1000人が死亡しています。

熱中症は暑さによって体温調節機能が失われて起きる健康障害です。ほかにも、花粉症やインフルエンザ、循環器系疾患など天気が引き金となって発生する病気も多いです。温度差によるヒートショックによって、浴槽で溺(で)死者は全国で年間5000人にもなるというデータがあります。また、天気は人間の心にも大きく影響します。日差しが少ない状態が続いていると、気分が落ち込みがちになります。冬季うつ病(季節性感情障害)といって、日本海側地域で冬の日差しが少ない時期にうつになる方がいます。天気と健康は密接に関係していますので、福祉に関わる方は天気の変化に敏感になっていただくことが良い仕事に、日々のより良い生活につながるはずです。

### ■あしがき

通勤や利用者宅への訪問時など、普段何気なく聞いているラジオ。私はラジオが好きでよく聞いているのですが、森山さんとの対談を通して気象予報士の方々の思いや苦勞、工夫を知ることができました。道民を災害から守り、生活がより良いものになることを願って、気象の世界に向き合っていることを伝えてくださっているんですね。

福祉現場でも、天気の話は利用者どのコミュニケーションにも活用できます。単純に「良い天気ですよ」と伝えるよりも、「とても気持ちの良いすっきりした青空」のように、イメージさせる一言を添えることがポイントなんです。相手の出身地の天気をチェックしておくのも実践してみようと思います。

森山さんは防災に関する講演活動もされているということなので、機会があればぜひお話を聞いてみてはいかがでしょうか。

※対談は感染対策を徹底した上で行っています。

▶一般社団法人福祉システム北海道▶  
ホームページ <http://fukushi-sh.net/>  
問い合わせ先 [info@fukushi-sh.net](mailto:info@fukushi-sh.net)